

都道府県別賞一等

再生途中のプレイリスト

山口県 宇部市立川上中学校 三学年

村上 ゆり

我が家は両親が共働きなので、私と妹は小さいころから祖父母の家で過ごすことが多かった。特に夏休みなどには、祖父の好物である祖母の作ったうどんをみんなで食べたり、一緒にトランプで遊んでもらったりしていた。私と妹の誕生日には、毎年手巻き寿司やケーキを食べて、お祝いしてもらっていた。毎年みんなで撮っていた集合写真は、これからも当たり前前に増えていくのだろうと思っていた。

今年の五月、大好きな祖父が亡くなった。母の父である祖父は、昨年の夏に肺ガンのステージⅣであることが発覚し、それから一年もたたないうちにいなくなってしまった。近くに任んでいて闘病生活を間近で見してきたこともあり、当然ショックも大きくとても悲しかった。当時はお通夜や葬儀などが着々と進められていき、あつという間に時が過ぎていったように感じた。祖父はもういないという事実だけが残っていて、いまだに受け入れられていないところもある。祖父が息を引き取る直前に枕もとで流していた曲は、今も再生途中で動かせないままにいる。

今回生命保険に関する作文を書くことになり、私は真つ先に祖父のことが頭に思い浮かんだ。そこで私は、祖母と母に生命保険について尋ねてみた。

祖父の肺ガンが発覚してから、大病院で入院しての治療が始まった。ステージⅣだったので、手術はできず抗ガン剤治療をすることになった。治療が経過するにつれ、体に副反応が出てきたり、薬が効かなくなって薬を変更しないといけないくなったりして、予期せぬ入院もあった。治療ができず在宅看護をすることになった時には、在宅酸素療法の機械や介護ベッド、また車椅子などの介護用品も必要となった。これらのような十分な治療や介護を受けるためには、たくさんのお金がかかってしまう。しかし、祖父は生命保険に加えガン特約を付けていたので、お金のことは心配せず、祖父の体の心配だけに専念することができた。最期は私と両親と母の弟家族、祖母で看取ることができ、後悔は残らなかった。でも本当は、もっとたくさん話をして、たくさん一緒にご飯を食べたかったなと思っている。

今回の経験で、私は二つのことを学んだ。一つは、生命保険はいざとなった時に経済面を支えてくれる心強い味方であるということだ。考えたくはないけれど、どんなに大切な人にとって、いつかはお別れの時がきてしまう。その時のために、生命保険に入っておくから備えておきたいと思う。それはきつと、つらく悲しいことだと思うが、その時には今回の祖父とのお別れの時のように悔いの残らない

## 第62回中学生作文コンクール

ようにしたい。

もう一つは、何気ない日常の幸せは当たり前ではないということだ。祖父と過ごした日々のように、今私が過ごしている時間も決して永遠に続くものではない。頭ではわかっていたけれど、今回の出来事でより実感することができた。それを心に留めて、小さな幸せを一つ一つ大切に、感謝の気持ちをもって過ごしていきたい。